きょうの紙面

経済	6、22面
こだま、小説	7面
くらし	8、9面
文化	10面
スポーツ	14、15面
地域版	18、19面
碁・将棋	21面
商況	12、13面
テレビ・ラジオ	21面

(ゲッティ＝共同)

閲覧数伸びず
ブログを閉鎖
5面

米軍ヘリ不時着

沖縄県うるま市の津堅島で2日夜、住民が「米軍ヘリが着陸している」と110番。住宅から約120㍍の畑に不時着しており、県は3日、米軍に抗議する考えを示した。►24面

五輪開催7割懸念

「あな特通信員」へのアンケートで、東京五輪・パラリンピックの「中止・延期」を求める声が7割を超え、今夏開催への懸念が強まっていることが浮き彫りになった。►23面

五輪対策 踏み込む専門家 2面
政治とカネ 説明ないまま 3面
イスラエル野党 連立合意 5面
原発を「最大限活用」削除 6面
百貨店 土日の売り場拡大 22面

社説 福岡県教育委員 7面
ままのわ ははのわ 20面

ソフトバンク 3 - 4 DeNA 6月3日
ホークス感謝 ☎092(711)5430(平日10～17時)

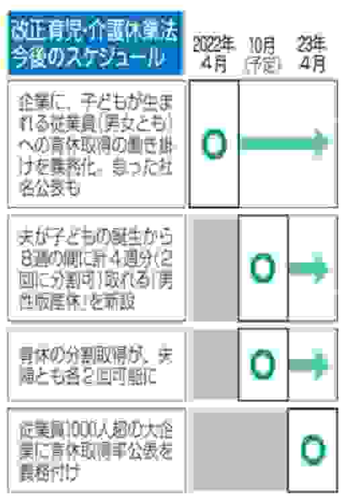
発行所
西日本新聞社 ☎092(711)5555(代)
〒810-8721福岡市中央区天神1丁目4番1号
お客さまセンター 092(711)5331
平日10～16時 土曜10～14時(日・祝日休み)
購読・配達の案内(6～20時) 0120-44-0120

「男性版産休」新設

取得働き掛け 企業に義務

改正法成立

父親が育児のために休みを取得しやすくする改正育児・介護休業法などが3日、衆院本会議で可決、成立した。子どもが生まれて8週間以内に夫が計4週分の休みを取れる「出生時育児休業（男性版産休）」を新設。来年4月からは企業に対し、子どもが生まれる従業員一人一人に育休取得を働き掛けるよう義務付ける。夫婦が協力して家事や育児を担い、安心して子育てできる環境の整備を後押しし、少子化に歯止めをかける狙いがある。【3面に「読み解く」】



政府は、7・48%（2019年度）と低迷する男性の育休取得率を25年に30%まで引き上げる目標を掲げる。法改正で柔軟に休める制度は整うが、中小企業を中心に代替要員の確保に悩む企業は多く、どこまで取得が進むかは未知数だ。

男性版産休は、育休の特例措置で夫のみが利用できる。2回まで分けられ、申請期限は2週間前までと、通常の育休の1カ月前よりも短い。育児休業給付金や社会保険料の免除により、通常の制度と同じく最大で賃金の実質8割が保障される。施行時期は来年10月を想定している。

働き掛け義務化は、従来の努力義務を引き上げる形で導入し、違反した場合は労働局による指導や勧告の対象となる。従わないなどの悪質なケースは社名を公表できる。

厚生労働省によると、産後うつなどが起こりやすい妻の出産直後に休みを取りたい夫は多いが、取得が進まない背景には、休みを取りにくい職場の雰囲気や無理解がある。研修や相談窓口整備と合わせ、上司との面談などの形で会社側から育休制度を伝えることで、従業員が希望を言いやすくなると期待される。

このほか、原則子どもが1歳になるまでに1回しか取れない通常の育休を、夫婦それぞれが2回まで分割取得できるようにする。従業員千人超の大企業には、23年4月から社員の育休取得状況の公表も義務付ける。

㊧火山灰から掘り起こされた車を見つめる消防関係者
㊨報道陣の取材拠点だった「定点」を訪れ、献花する遺族＝いずれも3日午後、長崎県島原市（撮影・佐藤雄太朗）

大火砕流30年の決意

地元「普賢岳の経験 後世に」

長崎県雲仙・普賢岳で消防団員や警察官、報道関係者ら43人が犠牲になった大火砕流から30年となった3日、地元の島原市では各地で追悼行事が営まれた。この日は、犠牲者の鎮魂と災害の記憶の継承を誓う「いのりの日」。雨が降りしきる中、人々は静かに祈りをささげた。【24、25面に関連記事】

大火砕流が発生した午後4時8分、市内ではサイレンが響き、住民らが黙とうした。消防団員の詰め所だった北上木場農業研修所跡でも鐘が打ち鳴らされた。

消防分団長だった父・山下日出雄さん＝当時(37)＝を亡くした次男の優樹さん(42)は「ここまで大きくなったよ、という思いを込めて鐘を鳴らした。長いようであっという間だった30年。これからも忘れることはない」と語った。

12人を失った市消防団は「島原復興アリーナ」にある消防殉職者慰霊碑前に献花台を設置し、関係者が花を手向けた。

報道陣が取材拠点としていた「定点」周辺にも遺族らが慰霊に訪れた。三角ずいの白い木製モニュメントや、今春に火山灰から掘り起こして「被災遺構」として整備した取材用車両の前で手を合わせていた。

多くの被災者が移転した仁田団地（同市仁田町）の公園では、市が追悼式を開催。古川隆三郎市長は「大自然の脅威を歴史から学び、火山が育んだ大地の恵みを大切にして、災害で得た経験を後世につなげたい」と述べた。

普賢岳は1990年11月、198年ぶりに噴火。91年6月3日の大火砕流では、避難勧告区域内にいた報道関係者やタクシー運転手、警戒していた消防団員ら43人が犠牲になった。96年6月に終息宣言が出された。（岡部由佳里）

痛み胸に 報道の質高める

特別編集委員　長谷川 彰

3日午後4時8分、普賢岳麓の「定点」で、時折強まる風雨の中、雪に隠れた山頂を背に黙とうをささげた。

報道機関にとって火砕流を正面から撮影できる場所だった。梅雨に入り悪天候でヘリが飛ばせないことも多く、外せない地上の取材ポイント。そこで起きたのが、あの災害だった。

チャーターしたタクシーの運転手、警戒に当たった消防団員や警察官といった方々を巻き込む結果となり「マスコミは危険な場所になぜ居続けたのか」と強い批判を浴びた。

火砕流が初めて確認されたのは5月24日。翌日、「小規模の火砕流」と発表された。初任地・鹿児島での桜島取材を通じその言葉に覚えがあり「極めてまれな現象。最悪を想定し警告すべきだ」とデスクに進言した記憶がある。

記事は26日付の朝刊で「雲仙の溶岩塊崩落 火砕流だった」の見出しで1面トップに置かれた。扱いは新聞各紙の中で突出していた。専門家らからは「過剰反応」「必要以上に住民の不安をあおる」とたしなめられ、正直、顔色を失った。

抑制的な空気が、本紙を含む報道各社の取材現場や本社の担当部署に広がった。

認識を改める転機はあった。記事が載った当日、水無川で防災工事中だった男性が火砕流で負傷した一件だ。それ以降、九州大の観測所長、太田一也教授の言葉が変わった。

「上司に言って、あの場所（定点）から報道陣を下げさせなさい」。太田教授は警告を発し続けたが、強制力のある要請ではないーといった受け止めで、大半の社が定点を離れなかった。本紙の場合、大火砕流の発生時にたまたま誰も定点におらず、被災を免れたにすぎない。

「最悪の想定」で記事を書いたつもりでも、自社内の危機感さえ高められていなかったわけで、私の記者としての敗北だった。

しかし報道機関として立ち止まってはいられない。火砕流に対して無知、無防備だった当時と同じように、この10年間でも巨大な津波、原発事故による放射能汚染、線状降水帯による集中豪雨など、未経験の災害に直面し続けている。

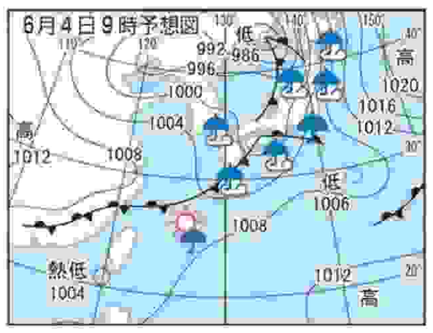
私を含め6・3に直接関わった記者たちは数年内に一線を去る。ここで改めて痛みを胸に教訓を後輩に渡すことで、国民の命を守る災害報道の質を高めたい。43人の犠牲を無にしない、せめてもの責務でもある。

春秋

2021.6.4

読書好きだった樹木希林さん（2018年死去）は、自宅に置く本は「常に100冊」と決めていた。新たに1冊手に入れると、別の1冊を人にあげたそうだ▼多くは映画やドラマなど仕事に関係のある本。その中に一冊の句集があった。「石橋秀野の一〇〇句を読む」（山本安見子著）。がんと闘いながら女優を続けた希林さんが繰り返し読んでいたという▼秀野は与謝野晶子に短歌を、高浜虚子に俳句を学んだ。38歳で世を去り「幻の俳人」とも呼ばれる。代表作は〈蝉時雨子は担送車に追ひつけず〉。結核だった秀野は亡くなる2カ月前、ストレッチャーに乗せられ病室に運ばれた。その時に詠んだ句だ▼泣きながら追い掛ける幼い娘。2人の距離は開き、母を呼ぶ声は蝉時雨にかき消されていく。永遠の別れを予感した秀野の思いが17の音に凝縮されている▼希林さんのほかにも秀野に魅せられ足跡を追い続けている人がいる。さだまさしさんだ。映画「二百三高地」の主題歌「防人の詩」が「戦争美化」と激しくたたかれた頃のこと。同じ長崎出身の文芸評論家、山本健吉（1988年死去）が「最高傑作」と評価してくれ、歌を続けていく支えになった。以来、親しく付き合い、健吉の妻だった秀野のことも知った▼健吉と秀野、さださんの運命の出会いを描いたTVQ九州放送の番組「さだまさし『原点』への旅」が完成した。放送は5日午後4時。

HRハッカーは人事最適の全てに伴走します
HR ハッカー 求人広告にもう頼らない
HRハッカー 検索 西日本新聞社



概況

4日の九州は昼ごろまで雨が降る所が多く、南部は朝に局地的に非常に激しく降り、大雨の恐れ。土砂災害や河川の増水などに警戒。

初夏限定販売
ひよ子のやきもち 八女茶
自家製抹茶餡使用
0120-860-145 ネット通販 「ひよ子」で検索

4910855790413 00136

西日本新聞

実話を題にした命と食の物語
絵本 いのちをいただく
ロングセラー●ビジネス開業部

2021年 6月4日（金曜日）

医療法人 蔵本ウイメンズクリニック
福岡市博多区博多駅東1丁目1-19(JR博多駅筑紫口より徒歩4分) ☎(092)482-5558
ホームページ http://www.kuramoto.or.jp
ISO 9001:2015 認証取得
不妊相談（産婦人科）